

常任委員会視察ルポ

文教委員会視察ルポ

て使用されることで、啓発効果がある伺った。

五月十八日から二十日に、リサイクル事業について(伊丹市、子ども総合相談センター(舞鶴市)、男女共同参画センターウイズせつつ(摂津市)を行政視察した。



子ども総合相談センターで説明を受ける

伊丹市では、プラスチック製容器包装を含む八種類の分別など、資源物としてごみ回収種目が多く、リサイクル化が進んでおり、特に廃食用油再生燃料化事業は廃油が公用車の燃料とし

舞鶴市では子育て支援の取組みが優れていた。相談窓口の一本化をはかれ、子ども総合相談センターでは、専門家を配置し、○歳から十八歳までの子どもに関わるあらゆる相談をつけていた。教育委員会と福祉が合同となった子育て支援課の設立は参考になった。摂津市は、昭和六二年にすでに第一期女性プランを策定するなど男女共同参画の取組みの先進地である。男女共同参画を担当する部は市長部局にあり、あらゆる分野への促進を推進していた。条例こそ制定してないが実態が先行しており、事業費は年間二千五百万円生まれ、DV(配偶者等への暴力)の根絶、リーダーや団体育成、学校教育との連携など事業内容が豊富で大変優れていた。春日市も見習いたいと思った。

厚生委員会視察ルポ

五月二十四日より三日間、グループホーム「せらび江戸川」(東京都江戸川区)、知的障害者授産施設「セルプ水土舎」(群馬県富岡市)、知的障害者授産施設「くわのみ」(同伊勢崎市)

「NPO法人エコ平板・防塵マスク支援協会」(千葉県柏市)を視察した。いずれも民間での運営で様々な工夫が見られた。「せらび江戸川」は会社の寮をリフォームした住宅地の中の施設である。あえてバリアフリーにせず、自宅に似た環境を作り出していた。アットホームな雰囲気であり、家族の面会も自由であった。「セルプ水土舎」では、ハムソーセージの製造、養鶏、米・ブルーベリー・イチジク等の耕作を行っている。ここでは月に平均二〜三万円程度の手取り収入があり、これに障害者手当を



「くわのみ」を視察する厚生委員会

加えてグループホームで生活することを目指していた。

「くわのみ」では、地域の中で安心して暮らしていけるグループホームを三箇所設置し、その職員もローテーションにより、作業所と一体化した運営がなされていた。

「NPO法人エコ平板・防塵マスク支援協会」では、知的障害者授産施設に対し、廃材のタイルや瓦等をセメントで固めデザインしたエコ平板の技術指導を行っている。各地で歩道等の敷石、ベンチ他公共事業での実績があり、また原価が安いため一般業者に対して十分な競争力を持つことができた。熟練した障害者がつくるエコ平板は、芸術的とも言えるほどの出来栄であった。

編集後記

地震・カミナリ・火事・親父、これは先人から聞かされてきた恐いものの順番である。今まで地震がどうして一番恐いのかわからなかったが、今年の三・四月に発生した震度五強の地震で、その恐さを思い知らされた。震源が本市の中央を南北に走っている警固断層と繋がっており、この断層が長期的にみて、大地震につながる可能性があるような報道もなされている。

今、各家庭ですることは、地震対策を何度も話し合うことではないだろうか。(浩孝)

- 議会報編集特別委員会
- 委員長 長能 文代
- 副委員長 谷 成之
- 委員 松尾 浩孝
- 委員 柴田 英明

